



イタリア
フィレンツエ

シリヤ紀行
イレントツエを旅して

十一月二十二日、イタリアの旅四日目は、フィレンツエ・ピサの市内観光。四日目ともなると時差ボケも消え、旅の楽しさを満喫しておりましたが、移動と観光が半日づつの中、ハードなスケジュールのため、ボチボチ疲れも出て来る頃でした。

伝統を継いで五十余年

第二文化婦人会

歴代会長は初代が浅場タケさん（以下敬称略）二代目以下の皆さんは、杉崎ハル、下村しげ、横山章子、上原朝子、佐藤キクノ、横山章子（2度目）、田島孝子、秋元佑代（現会長）と続く。

毎年にわたり功績のあつた歴代会長さん達も、上原さん、現会長の秋元を除いて鬼籍に入られている。

発足以来の活動は多岐にわたり現在で言うところの社会奉仕、例えば、小杉駅前の広場の清掃や高津区を始め方々の老人ホームへ出向いてシーツの交換などを積極的におこ



静岡県焼津にて。
前列左から田島孝子、秋元伉代
後列左から横山章子、沼田イツ子の皆さん

切合いと上席 不苦不

少い者ぢやない親の夫婦が多し。夫婦の夫婦が多し。

婦人会の敬老会ではよく踊つたものである。料理なども市民館、婦人会館で勉強させてもらつた。その他長寿荘、平和島温泉、綱島温泉への日帰り旅行もよく計画した。婦人会の活動に関する公的な補助はないので会員に対する衣料品などの物資の斡旋を春夏に行い、その斡旋手数料を婦人会の収入として、会費と併せて活動の活性化の一助にしている。

会員は当初から一三〇人は居たと思うが、現在も一〇〇人は居る。楽しかった思い出は沢山あるが、苦労したと感じたことは無い。しかし、最近は若い人が入つてこないのでも少々心配である。若い人は若い者同士の付合いを優先しているのかも知れない。

私たちの代で、この伝統ある婦人会を終わりにしたくなつたので、是非、若い人達に入会して頂きたいというのが、切実な願いである。

青木 源司 警報に潜る床下終戦日
むずかしい話はあとに氷水
手造りの神輿かけ声路地を行く
荒井 スミ 終戦日怒りも消えて只呆然
手の平に乗せてサイコロ冷奴
締切りて風鈴鳴らぬ大暑かな
梅田 松男 青春やお芋に耐えし敗戦忌
南瓜つる堀よりのぞく大暑かな
夏萩のこぼれし夜半の魂送り
川部 露子 それぞれの想いは重い終戦忌
お弁当食べてくるねと夏駒ヶ岳
富士の峯今日もおでまし坂東太郎
齊藤 正子 同期会開催通知終戦日
佐藤 輝之 風を待つテレビの脇の古団扇
夏草の踏跡水場へ一直線
今は亡き友と過せし終戦日
強き眸の有言実行涼しかり
紅い花狂い咲きたる大暑かな

滝口　園
終戦日父母の悲嘆が甦る
蟹狙い岩頭にたつ尾白鷺
オホーツクの鮭帰る町榮え居
終戦忌我より若き兄の居り
木漏れ日を避けて石段蟬しぐ
夏草に道を取られて江戸しぐ
道まよひ寺社と廃屋夏の月
朝餉かな茶碗かたかた百日
風鈴の泳ぐや風の強すぎて
芋粥を啜りて耐えし終戦忌
脱け殻の残る老木蟬時雨
素麺を主食に据えて凌ぐ夏
茂木　久七
喜寿嫌ふ暑気払ひとし姉祝
盆支度覚えし経を譜じて
流行の水着着てみる試着室
父帰る只それだけの秋の暮
長谷川照里

どんな雨でも
けつしてズボンを泥で汚さ
歩いていましたね

ページュ、クロ、
ちよつと白っぽい
やわらかい皮のクツ
大好きな歌舞伎座に
はいていつたクツ：
さつきまで履いていたみた
母の足の型かたちそのままに
今はもう扉の奥で
静かにいます
思い切つて開けてみました
もういいよね
思い出は私の胸の中で
いいつでも
生きているから…

月がとつても蒼いからと
う歌を聞いたのははずつと昔
事。そして知人からイタリ
のベネチアに出る月は蒼い
聞かされたのは、そんなに
い話ではない。果たしてど

醉うて沙場に臥す
君笑うことなけれ
(王軫『涼州詞』)
そこで夜光杯に月を映して
飲めば蒼く見えるだろうか。
試してみたところ気のせいか
長安の月は幾分か蒼味がかつ
て見えた。
・長安一片の月
万戸衣をうつの声
秋風吹き尽くさず
全て是玉闕の情

(李白『五言古詞』)
さて、夜光杯の事を思い出
して町会の旅行でベネチアへ
持つていいく事にした。ただで
さえ蒼いといわれたベネチアへ
の月は夜光杯の宝玉に映えて、
あたかもサファイアの如く輝
いてくれるであろうか。かく輝
して、ベネチアで昼となく、
夜となく、朝となく観察する
こととなつた。
結果はどうであつたか。朝
と昼の月は白く、夜の月は煌
々と金色に輝き、そして白ワ
インのみが小麦色に輝いて見
えた。



ツエのシンボル、サンタ・マリア大聖堂は、神秘に満ちていた。仄暗い礼拝堂、その中に光を呼び込むステンドグラス。その中に佇むと、信仰心の薄い私でも祈る心を呼び覚された思いでした。
あかね
茜さす
ステンドグラスや 大聖堂
イタリアの主食は、スペゲティ、マカロニ、ピッツア、そしてパスタ、種類は100を超えると云う。でも私の胃袋は、皆同じ様に拒絶反応を示しておりました。和食の有難さを痛感した次第です。古代都市、ポンペイ遺跡を始め、国中には素晴らしい世界遺産があふれ、世界に誇れる歴史を持つ国、風光明媚、温暖な気候、この素晴らしい国イタリア！と雖も、食、と思うと私は住みたくない。否、絶対に住めないと思った。中華料理の昼食でホットと一息。ピサに向うバスに乗り込みました。

短歌 初夏尾瀬
しつげん 湿原の花訪う心止み難く
梅雨空押して一人旅立つ
はるばると期待に胸のときめきを
押えかね来し尾瀬の広原
どこ迄も風にたゆたうわたすげの
群落続く木道を行く

俳句 高山 房子

八幡の祭りに捧ぐ一鉢の
稻継ぐ職を誰か知るらん

四つ角に赤き点散る枝広げ
姫林檎立つ仲間もなしに

捨てられし美神の石膏我が室に
美神なにごとと思いふけるや
松森 亂子

天神台句会 ○第50回記念 8月20日

終戦日面影母の奥座敷

白富士の嶺より出づる柿田川

眞夏日に加えてせみのなき声
エアコンにらんで節電おも
この暑さ子らはとびはね又走
我にもこういう時代はあつた
多摩川の四季秋
いすこより吹きちぎられて来し雲
多摩の河原に影落し行く
植込みの百日紅のくれないば
強き日差しにいと輝けり
終戦日十七の我が影戾る
電話番号ふと忘れたる猛暑か
退院の知らせや夏の月さや
時止めて夏の波間に釣の船
風に乗り里の灯に入る終戦
高山 房三

縁結び 秦野出雲分祠
御社に仕える巫女の白き腕
涼しく授く出雲の神印
遠に来て出雲分祠に出逢ふ巫
衆人が集ふ関東出雲社に
巫女笑みあれば縁も結ば
ブルベリー嗜めば思ほゆ初恋
甘酸ぎ味よ五十の昔の
芋粥を啜りて堪えし戦時禍
子に語り継ぐ平和嗜み締
空蝉の残る老木淋しかり
命燃して蟬時雨降る
一靴】 ベンネーム
宮沢 治
久 茂木

何ともロマンに満ちた話に思えて確かめてみたり、いろいろと考えを巡らせる羽目になつた。

大唐帝国の都「長安」は現在の「西安」である。かつて三藏法師や弘法大師¹¹空海が修行していた所である。ここを起點にしてシルクロードの奥地に足を運ぶと、井上靖の小説で有名なゴビ砂漠の街・敦煌へ飛行機で1時間半で着く。井上靖は實際には敦煌へは行かずに想像での小説を書いたそうである。

まさに恐れいつた次第であるが、その後未だ飛行機が運航していない時に汽車で敦煌を訪れたというが、北京から実に5日間かかったそうである。

この敦煌には外国人相手、主に日本人観光客相手の商店が沢山出来ていて、ここで土産に夜光杯を幾つか買込んだ。夜光杯とは夜中に光る宝玉で作つた杯のことである。

・葡萄の美酒 夜光の杯
飲まんと欲すれば